

まちづくりビジョン検討のための視点について

向島ニュータウンの現状・課題認識

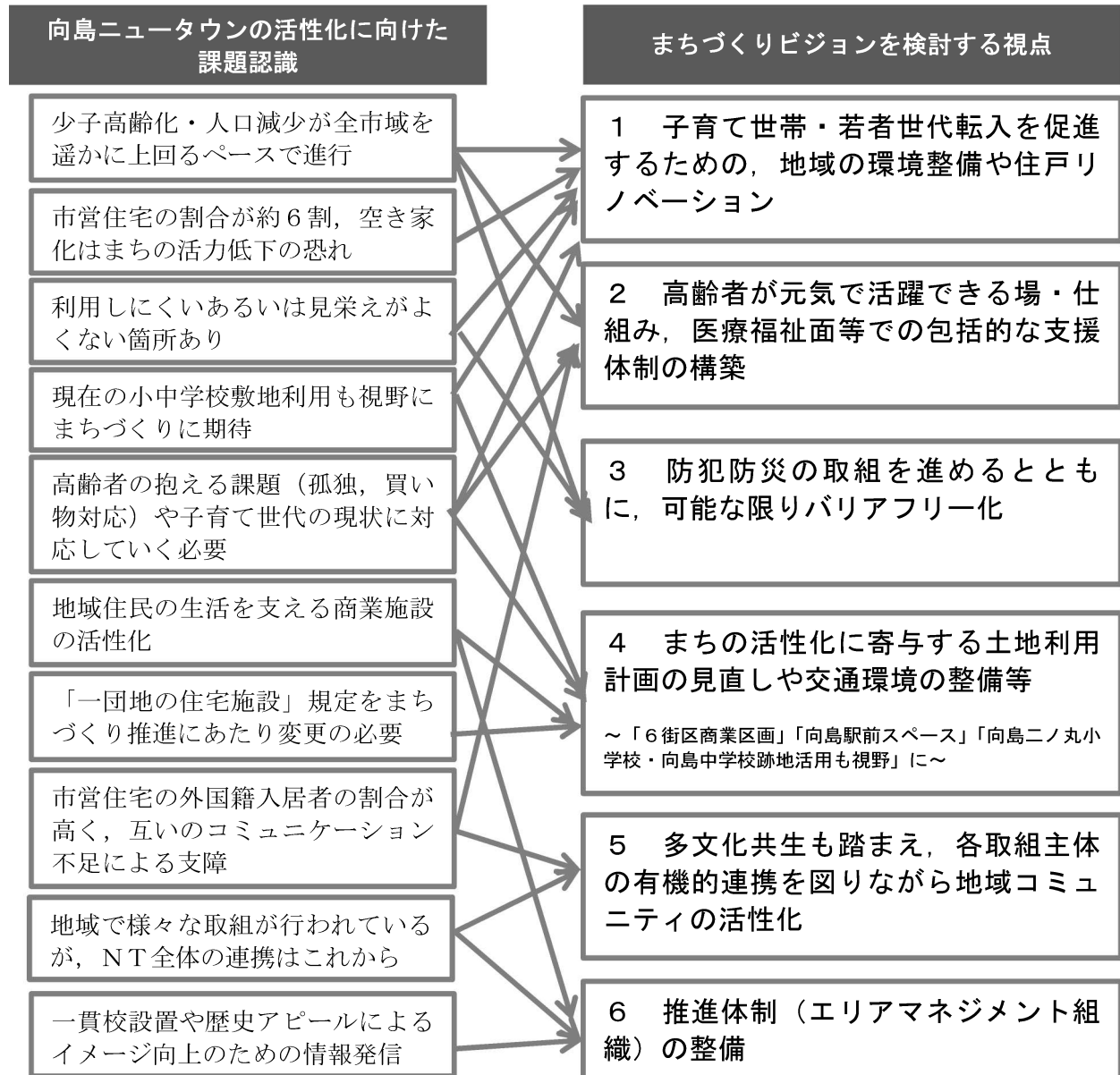
- 少子高齢化・人口減少が全市域を遥かに上回るペースで進行
- 市営住宅の割合が約6割を占めており、市営住宅の空き家化はまちの活力低下につながる恐れがあるほか、様々な課題
(例えば、市営住宅の外国籍入居者の割合が高く、互いのコミュニケーション不足等による支障（自治会運営等）が生じているなど)
- 共用部分において、
 - ・ 高齢者や障がい者等に利用しにくい（あるいは出来ない）箇所（例えば向島中央公園の柵等や障がい者が入れないゲートがある）の存在
 - ・ 6街区内の中央の広場兼通路の凸凹、向島中央公園の鬱蒼とした樹木や池の汚れ、11街区南側の道路柵の錆など、見栄えがよくない箇所の存在
- 地域住民の生活を支える商業施設の活性化
- 従来からの自治会や各種団体、民生・児童委員協議会、社会福祉協議会の活動に加え、向島駅前まちづくり協議会や京都文教大学など、様々な主体による取組が展開されるも、学区・地域を越えた連携や協力体制の構築は、これからの課題
- まちづくりアンケートや地域における活動において浮かび上がってきている「高齢者の抱える問題（孤独、買い物支援の必要など）」「子育て世代の状況」などにも対応が必要
- 平成31年4月に小中一貫教育校創設が予定されており、現在の小中学校敷地利用も視野に入れたまちづくりに期待
- 上記一貫校創設を契機に、また、その他、向島城跡の歴史をアピールするなどによって、地域教育の充実も図りながら、向島イメージ向上のための情報発信も検討
- 「一団地の住宅施設」規定について、今後のまちづくりの推進にあたってはこれを変更等する必要があると考えられ、ビジョンはこれに対応できるものとして検討

京都文教マイタウン向島の開設

平成24年度に、向島ニュータウンセンター商店会の空き店舗を、京都市住宅供給公社が京都文教大学に貸与し、地域交流拠点「京都文教マイタウン向島」が開設され、様々な活動が行われている。



以上のような現状・課題認識を踏まえ、向島ニュータウンまちづくりビジョンでは、例えば次のような視点から、具体的な取組内容を検討していくことが考えられる。



目指すまちの姿（例）

「各世代と多文化が支えあい共生しながら、

安心安全に暮らせる元気なまち」